

令和5年度 公益財団法人宮崎県スポーツ協会 事業報告

総括

公益法人としてより一層の組織体制全般及び事務、事業の推進を図り、加盟団体との連携体制の適正化や事務事業の効率化、競技力向上やタレント発掘事業、スポーツ医・科学事業、総合型地域スポーツクラブ等、各事業の推進において、一定の成果を上げることができた。

- (1) 会議、委員会、研修会を開催した。
 - ・定例理事会を3回（6・11・3月）、臨時理事会を1回（6月）
 - ・定時評議員会を1回（6月）、臨時評議員会を1回（3月）
 - ・評議員選定委員会を2回（6月・9月）
 - ・専門委員会 総務委員会、財務委員会を3回（5・11・2月）
企画委員会、強化・育成委員会を3回（5・11・2月）
普及委員会、表彰委員会を3回（5・10・2月）
倫理・コンプライアンス委員会を2回（10・2月）
 - ・加盟団体事務事業説明会（4月）
- (2) 自主財源確保事業
 - ・賛助会員募集 法人・企業・団体会員：139件、個人会員：51件
 - ・協賛広告募集 20件
 - ・オリジナルシャツ販売 394着
 - ・Sports for all 推進費付き自動販売機 4台

1 競技力向上事業

継続、安定した競技力を目指し、関係機関団体と連携して、事業等の検証、競技団体の組織運営の向上、指導者の育成、県民の理解、支援拡大に取り組んだ結果、各事業で下記のとおり成果を上げることができた。

- (1) 選手強化事業
 - ・競技団体41団体、個人9名に事業費の一部を補助した。
- (2) 宮崎ワールドアスリート発掘・育成プロジェクト事業
スポーツにおいて優れた資質を有する県内の子どもたちを早期に見出し、2027に本県で開催される国民スポーツ大会、オリンピック等の国際大会で活躍できる人材や、将来、スポーツに関わる県や日本のリーダーとして活躍できる人材育成を目指して、小学5年生から中学3年生までの計134名のアスリート生を対象に月2回の育成プログラム及び競技の専門化を図るパスウェイプログラムを実施した。
- (3) 加盟団体組織整備事業
 - ・競技団体41団体に強化対策活動費の一部を補助した。
- (4) 強化推進事業
 - ・競技団体との協議：12月から1月にかけて、41競技団体にヒアリングを実施した。
 - ・チームみやざきミーティング
 - 第1回：5月11日、41競技団体の各種別監督等を対象に、ひなた武道館主道場において「令和5年度の強化計画の推進」等について各競技団体がグループワークを行い意見交換した。
 - 第2回：11月16日、41競技団体の理事長や強化委員長等を対象に、ひなた武道館主道場において、「2027宮崎国スポに向けての競技力向上対策」等について、各競技団体がグループワークを行い意見交換した。
 - ・国民体育大会強化指定証交付：41競技団体1,817名に交付した。
 - ・視察、激励、支援要請のため、競技団体、企業、学校等を訪問した。
- (5) 国体選手育成強化事業

- ・大学・社会人スポーツ支援：8団体、個人32名を指定して活動費の一部を補助した。
- (6) アスリート育成支援プロジェクト事業
 - ・トップチーム活用事業：12団体を指定して活動費の一部を補助した。
 - ・メンタルコーチ等活用事業：13団体を指定して活動費の一部を補助した。
- (7) 女性アスリート強化戦略プロジェクト事業
 - ・ネクストアスリート強化指定選手支援事業
国民体育大会において、入賞間際の23名の女性アスリートに対して活動費の一部を補助した。
 - ・スポーツ環境支援事業
5名の女性アスリートに強化活動におけるトレーナー、保育士等の活用にかかる経費の一部を補助した。
- (8) 障がい者アスリート支援事業
 - ・今年度対象者なし。
- (9) チームみやぎき強化アドバイザー招へい事業
 - ・33競技47種目を指定して活動費の一部を補助した結果、高い指導力や豊富な指導経験を有する全国トップレベルの指導者を「チームみやぎき強化アドバイザー」として招聘し、各競技団体の競技力強化を図ることができた。
- (10) ターゲットエイジ強化プロジェクト事業
 - ・36競技団体に対して活動費の一部を補助した。
- (11) ふるさと選手活動支援
 - ・16競技団体に対して活動費の一部を補助した。
- (12) コンディショニングサポート事業
 - ・27競技29種別にトレーナーを派遣した。

2 国民体育（スポーツ）大会派遣事業

帯同コーチ、ドクター、アスレティックトレーナーの確保を図り、その派遣等を通して試合環境の整備を推進することができた。

- (1) 国民体育大会九州ブロック大会派遣
 - ・夏季大会：7月に大分県他で開催の10競技に選手、役員等222名を派遣した結果、5競技で17の代表権を獲得した。
 - ・秋季大会：8月に大分県で開催の21競技に選手、役員等685名を派遣した結果、14競技で21の代表権を獲得した。
 - ・冬季大会：12月に福岡県で開催の1競技に選手、役員等49名を派遣した。
- (2) 国民体育（スポーツ）大会派遣
 - ・本大会：9月から10月に鹿児島県他で開催の31競技に選手、役員等523名を派遣した結果、13競技19種別の団体、11競技50種目の個人が入賞し、天皇杯順位27位という成績を取めた。
 - ・冬季大会：1月に北海道、2月に山形県で開催の2競技に選手、役員等49名を派遣した。
- (3) コーチ派遣
 - ・国民体育大会九州ブロック大会：112名を派遣した。
 - ・本国体：96名を派遣した。
 - ・冬季大会：4名を派遣した。
- (4) ドクター、トレーナー派遣
 - ・国民体育大会九州ブロック大会にトレーナーを5名派遣した。
 - ・本国体にドクター5名、トレーナーを5名派遣した。(九プロ敗退競技の視察研修10名含)
 - ・冬季大会にトレーナー1名派遣した。(九プロ敗退競技の視察研修2名含む)

3 みやぎ県民総合スポーツ祭事業

- ・新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、参加者・競技者への制限等を緩和して開催することができた。
- ・総合開会式は6月3日ひなた武道館で開催し、大会は6市7町57会場で5月から9月の間、56競技に11,059名が参加した。

4 スポーツ指導者養成事業

- ・公認スポーツ指導者の活用、活躍に向けて、公認スポーツ指導者資格の啓発、指導者の資質向上に取り組み、地域のスポーツ指導者の取組を支援することができた。
- ・宮崎県スポーツ指導者協議会理事会を2回開催（6・12月）
- ・スポーツ指導者研修会開催 2月3日（土） ひなた武道館大会議室
講演：「スピードスケート金メダリストの成長を支えて」
講師 結城 匡啓 氏（信州大学学術研究院(教育学系) 教授）
講義：「体の使い方が変わる4つの底力(そこちから)～トレーニング理論と実践～」
講師 菅原 康史 氏（株式会社DONOW代表取締役 JSPO-AT）
- ・全国スポーツ指導者連絡会議はオンラインで開催した。
- ・表彰推薦：日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等表彰を2名が受賞した。
- ・スポーツ指導者協議会機関誌「躍動みやぎ」(第12号)を発行

5 地域スポーツ振興事業

競技の普及、競技力の向上、スポーツに対する県民の意識向上のため、加盟団体、報道機関、行政等と連携して、関係事業を推進することができた。

(1) 総合型地域スポーツクラブ設立、育成支援

- ・今年度までに17市町村32クラブとなった。
- ・県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会役員会を2回、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、理事会、総会を2回、部会を3回開催した。
- ・クラブマネジメントセミナーを9月16日(土)～17日(日)ひなた武道館で実施した。
- ・クラブ訪問を22登録クラブに実施した。

(2) 生涯スポーツ普及活動支援事業

総合型地域スポーツクラブ5クラブ、生涯スポーツ加盟団体2団体が事業を実施した。

(3) 加盟団体組織整備補助

国体競技団体以外の13競技団体と3学校体育団体、15市郡体育・スポーツ協会に補助金を交付した。

(4) 第13回宮崎チャレンジマッチ：6月25日ひなた県総合運動公園体育館においてウエイトリフティング競技を開催し、16名の県外選手を迎え本県選抜選手13名が6階級で実施した。

(5) 名義後援、共催

加盟団体等の事業、大会の後援107件、大会の共催：2件

6 スポーツ医・科学事業

宮崎県スポーツ協会アスレティックトレーナー(AT)育成講習会を実施し、2027宮崎国スポ・障スポに向けてATの資質向上を図ることができた。

- ・スポーツ医・科学委員会を3回開催した。
- ・ドーピング防止研修会：9月と1月の国体結団壮行式で監督、選手等を対象にして2回実施した
- ・スポーツ相談：国体結団壮行式の開催に合わせて実施した。
- ・メディカルチェック：11月19日、国スポ候補選手（陸上、バドミントン、水球、フェン

- ・シング、ホッケー、ウエイトリフティング、パラスポーツ) の7競技83名に実施した。
- ・メディカルチェック報告会：1月下旬から3月中旬にかけて各競技団体で日程、会場を設定して実施した。
- ・宮崎県スポーツ協会アスレティックトレーナー育成講習会開催：7月から2月にかけて、本県で活動するJ S P O—A T、県A Tに対して、4回の実技講習会と1回の研修会を実施した。
- ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成講習会に2名派遣し、日本スポーツ協会公認ドクター養成講習会に2名を推薦した。

7 スポーツ顕彰事業

表彰の推薦及び表彰事務が適正、円滑に行われるよう規程等を見直し、整備することができた。

- ・スポーツ功労賞、優秀賞、奨励賞：個人40名と2団体が受賞した。
- ・小・中学生を対象にしたスポーツ優秀賞(6団体、個人26名、指導者33名)、奨励賞(5団体、個人11名、指導者15名)を表彰した。
- ・宮崎県スポーツ少年団功労賞は、2団体、個人6名を表彰した。

8 スポーツ少年団事業

団員減少、指導者の資質向上、学校及び地域のスポーツ団体との連携など課題解決に組織全体で取り組んだ。今年度の登録団数は684団、登録団員は12,189名(前年度702団、12,054名)、登録指導者は1,559名(前年度1,659名)で団員は増、指導者は減少傾向であった。

- (1) 宮崎県中央大会：4年ぶり通常開催した。
- (2) 競技別交流大会・九州ブロック競技別交流大会：宮崎県開催(サッカー)
全国スポーツ交流大会(バレーボール・剣道)：(女子)江南スポーツ少年団(男子)広瀬西バレーボール男子スポーツ少年団が参加、剣道の派遣はなし。
- (3) スタートコーチ養成講習会：オンラインで開催し236名が終了した。
- (4) リーダー育成事業
 - ・ジュニア・リーダースクール：16名が参加した。
 - ・九州ブロックスポーツ少年大会：本県から指導者1名、団員4名が参加した。
 - ・全国スポーツ少年大会：参加はかった。
 - ・リーダー会活動：活動はなかった。
- (5) 母集団育成研修会、ブロック別研修会、リーダー研修会
 - ・母集団育成補助事業は、6市町、4市2町が実施、1市が辞退した。
 - ・ブロック別研修会は、3ブロックで実施した。
 - ・初級ジュニア・リーダー研修会は、1市が実施した。

9 広報及び記録収集、活用事業

本会、加盟団体及び本県スポーツに対する認識向上のため、SNSの活用などあらゆる機会を利用して情報を発信することができた。

- (1) 広報
 - ・広報機関誌宮スポ協第223号発行：県内関係機関に、3月末に1,800部発行した。
 - ・スポーツイベントの周知：ホームページで掲載した。
 - ・HP運用：月平均アクセス数5,390件
 - ・国民体育大会や本会に関わる会議、事業等の様子を即時に情報発信できるようアプリの活用に努めるとともに、HP上に国民体育大会申込専用ページをリンクさせ、情報発信に努めた。

- ・広報機関誌やHPを利用し、本県スポーツ施設の利用促進のための情報を発信した。
- (2) 記録収集、活用
- ・本会、加盟団体の事業、活動記録及び本県スポーツ情報を収集・管理し、HP等を通して県民に提供した。

10 スポーツ交流事業

日本スポーツ協会の交流事業

日独スポーツ少年団同時交流（受入）は、三股町で実施した。